

恩賜公園

恩賜という日本語の言葉はこの場合は「天皇からの贈り物」を意味し、芦ノ湖を見下ろすこの公園の由来へのヒントを与えています。1884年、塔ヶ島半島がまだ竹林で覆われていた頃、ドイツ人医師のエルヴィン・ベルツ（1849～1913）がその地を皇族の新しい静養の地として提案しました。ベルツは急速に近代化が進むこの国の優秀な若者が勉強していた東京帝国大学にて医学を教えるために日本政府に雇われていました。ベルツは温泉の治癒的性質を研究し、明治天皇（1852～1912）が望んだ離宮の地に箱根を推薦しました。天皇は息子で病気の皇太子、嘉仁親王（1879～1926）に快復のための場所を与えることを望み、また塔ヶ島半島の自然の特徴により外部からの侵入に対して防御を図りやすいこともあり、すべての要素がこの計画に有効に働いたようでした。

洋館と伝統的な日本館で構成された離宮は1886年に完成されました。両方の建物も関東全域で100,000人の死者を出した1923年の関東大震災により激しい損傷を受けました。洋式の建物は最後には取り壊された一方、日本館はより小さな形で建て直されました—ただし、7年後に別の地震で崩壊してしまいま

す。第二次世界大戦中、敷地と残った建物の維持は滞り、1945 年末には土地と建物は箱根が属する神奈川県へ寄付されました。翌年恩賜箱根公園として一般公開され、今では敷地内に 1882 年の洋館を思わせるスタイルで 1992 年に建てられた博物館を擁しています。元の建物の石の基礎は芦ノ湖を、そして晴れた日には富士山も見える博物館前庭にまだ見ることができます。もう一ヶ所興味深い場所として、博物館へと上る 200 段の石段があります。両側を苔で覆われたこの階段は、元の形を保っています。